

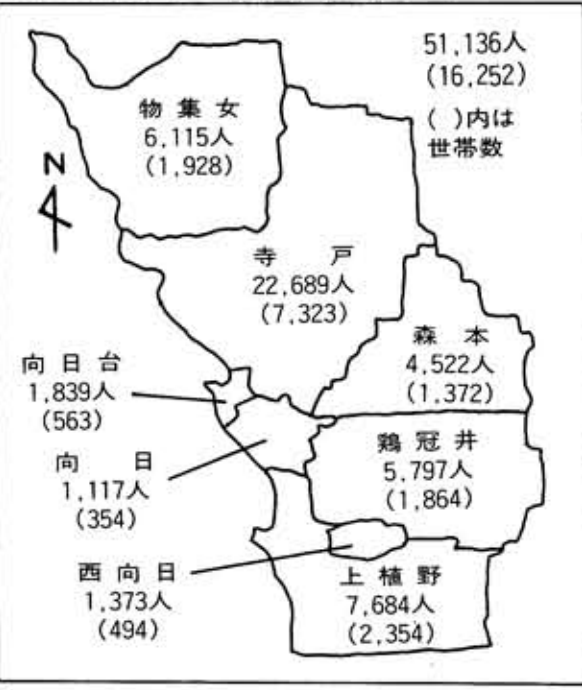
わたしたちのまちを知ろう



調査風景・1976年
向日市・長岡京市・大山崎町・京都市。郡司がいて、郡の税もここから納められていた。このように多くは、向日市に属していた。

図で見えるまちの文化財

●地区別人口(昭和57年7月1日)

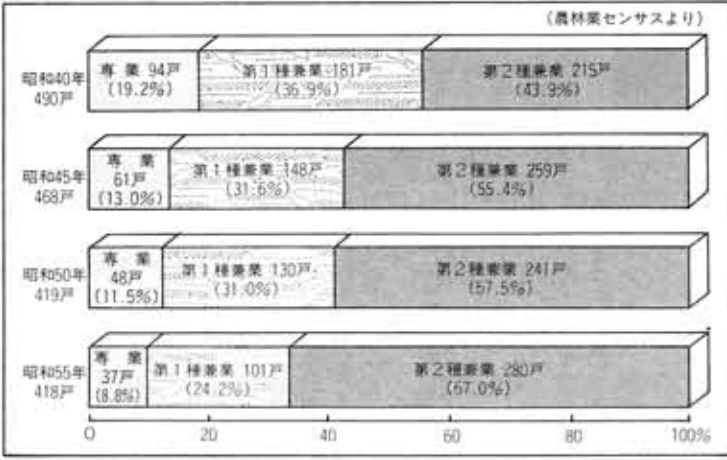


向日市は、京都府の東南部にあり、面積は八平方キロメートルです。市の北部と西部は京都市の西京区と、東部は京都市南区、伏見区と三方を京都市に、南部は長岡京市に接し、大山崎町を経て大阪府へとつながっています。地形は、南北に細長く、西部一帯には標高三十五メートル〜百メートルの丘陵地が横たわり、静かなところです。市の中央部は住宅街が集中し、一平方キロメートルあたりの人口密度は六千三百九十二人(57年7月1日)と、京都市下最高の過密状況を示しています。東部は平坦で耕地が多く、交通網も集中し東西一、二千メートルの間に、阪急電鉄・国鉄東海道本線・東海道新幹線・国道一七一号線・名神高速道路が通り、この地域も少しづつ宅地へと変わりつつあります。

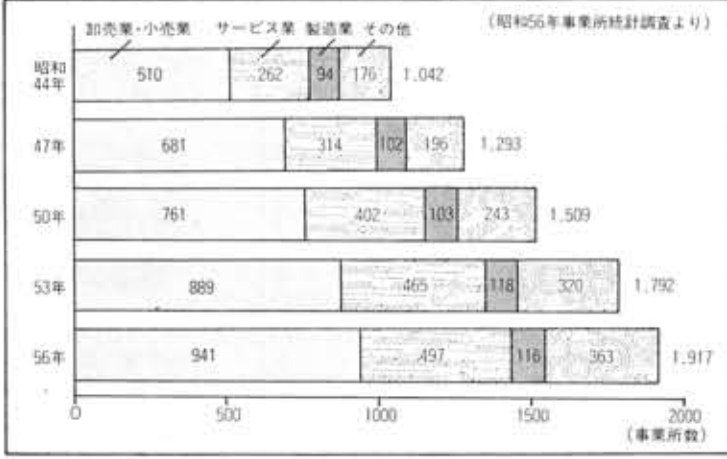
●世帯数および人口の移りかわり(各年10月1日現在)

年次	世帯数	人口		1世帯当り人口	人口密度(1km ² 当り)	
		総数	男			女
明治19年	752	3,528	1,875	1,653	4.69	441
大正14年	1,037	5,188	2,642	2,546	5.00	649
昭和20年	1,871	8,691	4,677	4,014	4.65	1,086
" 30年	2,259	10,506	5,140	5,366	4.65	1,313
" 35年	2,944	12,734	6,277	6,457	4.33	1,592
" 40年	5,464	20,730	10,341	10,389	3.79	2,561
" 45年	10,504	36,988	18,406	18,582	3.52	4,624
" 50年	13,556	45,886	22,885	23,001	3.38	5,736
" 55年	15,987	50,604	25,057	25,547	3.16	6,326

●農家数の移りかわり



●産業別事業所数の移りかわり



●過去3年間のお天気

日	昭和54年	55年	56年	日	昭和54年	55年	56年	日	昭和54年	55年	56年
1	☀	☁	☀	12	☀	☀	☁	23	☁	☁	☀
2	☁	☁	☀	13	☀	☀	☀	24	☀	☁	☁
3	☁	☁	☀	14	☀	☁	☁	25	☁	☁	☁
4	☀	☁	☁	15	☁	☁	☁	26	☁	☁	☁
5	☁	☁	☀	16	☁	☁	☀	27	☁	☁	☁
6	☁	☁	☁	17	☁	☁	☀	28	☀	☁	☁
7	☁	☁	☁	18	☀	☁	☁	29	☁	☁	☁
8	☀	☁	☁	19	☀	☁	☀	30	☁	☁	☀
9	☁	☁	☁	20	☁	☁	☁	31	☁	☁	☀
10	☀	☁	☁	21	☁	☁	☁				
11	☀	☁	☁	22	☀	☁	☁				



●寺戸大塚古墳出土の鏡—寺戸町芝山—
4世紀の後半に造られた長さ98mの前方後円墳である寺戸大塚古墳の前方部から出土した銅製の鏡です。身帯呼が中国(魏)からもたらしたものを豪族たちに配ったものだと考えられています。

●持統寺木造阿彌陀如来立像—上植野町北小路—
西暦六四五年、大化の改新により、天皇を中心とした中央集権国家が完成されると、全国に税徴収と農民掌握(しようあく)のための「条里制(じょうりせい)」が敷かれました。市内に今も残る「四ノ坪」「七ノ坪」「八ノ坪」「九ノ坪」「十相」という地名は、条里制による一町四方の坪名なのです。

短命の都
長岡京(七八四年〜七九四年)
奈良時代に入ると、仏教勢力が政治まで強い力を持つようになり、ついに桓武(かんむ)天皇は山背国(やましろのくに)長岡に新しい都を造らせました。これが、鶏冠井町大極殿に政治の中心をおく「長岡京」(西暦七八四年)です。

2万年ほど前から人々が生活していた
向日市のあけぼのには、先土器(せんとき)時代の昔にさかのぼります。清らかな水のわく、長岡丘陵のすそ野に残された、数多くの打製石器(だせいせつき)は、今から二万年ほど前から人々が生活していたことを物語っています。
また、物集女町中海道や森本町石田からは、縄文式土器(じょうもんしきどき)とともに、狩猟(しゅりょう)に使った石鏃(せきぞく)や石槍(せきやう)が出ています。
約二千年前、大陸から稲作の技術と金属器が伝わり、人々の生活は一変し、第3向陽小学校内から発掘された森本遺跡からは稲作のための新田二本の水路(すいり)が発見されています。また、木製の平鏡(ひらくわ)・杵(きね)・碗(わん)・弓や石包丁(いしぼうちよう)などの農耕に欠かせない用具や器具が出ています。
四世紀初めには、大和朝廷(やまとていてい)が日本に統一政権を作ったとされています。そして、諸豪族(しよこうぞく)を従わせた天皇は、権威を誇示(こし)するために、広大な古墳(こふん)を造りました。市内に残された元稲荷(もといなり)・五塚原(いつづがはら)・寺戸大塚・物集女車塚(くるまづか)の各古墳も、昔この地方を支配した豪族の墓と考えられています。

条里制のなごり
「四ノ坪」「十相」という地名
西暦六四五年、大化の改新により、天皇を中心とした中央集権国家が完成されると、全国に税徴収と農民掌握(しようあく)のための「条里制(じょうりせい)」が敷かれました。市内に今も残る「四ノ坪」「七ノ坪」「八ノ坪」「九ノ坪」「十相」という地名は、条里制による一町四方の坪名なのです。

わたしたちのまちの歴史

